

## 平成2年度第3回志太榛原圏域会議の各委員の意見と対応

## 1 自立支援、介護予防・重度化防止

委員名	意見	意見に対する対応（圏域計画の修正等）
石井委員（榛原医師会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防中心の施策にするべきで、現在進めている「通いの場」を住民主体自身が作っていくシステムを自治体が積極的に後押しすべきである。それにより、フレイル該当者が少なくなり、認知症の発症率も低下し、介護認定率も下がる。</li> <li>・ 上記に基づき具体的に目標を決め進めてゆくべきである。</li> <li>・ 介護、医療を取り巻く状況は高齢人口の増加に伴いますますます厳しくなっている。今ここで、積極的に予防施策を勧めなければ状況はより以上に悪化するであろう。</li> <li>・ 予防事業の効果はすぐには効果が出ないし、このコロナ禍でなかなか困難な事も多い。しかし志太榛原地区が積極的に押し進めてゆけば少しずつ状況は好転する。</li> <li>・ 是非とも、日本老年学的評価研究の勧め、住民主体の「通いの場」づくりを参考にして計画を練り直して欲しい。</li> <li>・ すぐに全体には動けないであろうから、少しずつでも良いから官民一体となって勉強し住民主体の「通いの場」を作りたい。</li> </ul> <p>参考資料：テキストとして、日本看護協会出版社 住民主体の楽しい「通いの場」づくり</p> <p>日本老年学的評価研究のサイト、通いの場でいきいき健康長寿 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護予防は重点項目であり、発症前からの施策について積極的に取組んで参ります。「住民主体の通いの場」について、圏域計画へ以下の文言を追加いたします。 「誰でも参加できる住民主体の通いの場を作り、増やし、継続・発展させることにより、地域づくりによる介護予防を積極的に支援します。」</li> </ul>

2 在宅医療・介護連携

委員名	意見	意見に対する対応（圏域計画の修正等）
	.	.
	.	.
	.	.
	.	.

3 認知症施策

委員名	意見	意見に対する対応（圏域計画の修正等）
	.	.
	.	.
	.	.
	.	.

4 介護サービス

委員名	意 見	意見に対する対応（圏域計画の修正等）
	・	・
	・	・
	・	・
	・	・

## 5 その他（介護人材の確保）

委員名	意見	意見に対する対応（圏域計画の修正等）
鈴木委員 （特別養 護老人ホ ーム）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題で、介護人材には充実した育成制度が必要としながら、対応では育成に関しては、具体策が少ないと感じました。（コロナ禍で ZOOM での研修が多くなっているため、そのような手段を使っての他施設との交流が出来るのではないかと思います。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材の確保には、充実した育成制度が必要ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、従来方式の研修の実施が難しくなっております。代わりに従来方式以外の方法も模索・進展しておりますので、以下の文言を圏域計画に追加いたします。 「感染症流行下で、ICT 化による研修機会の拡大と施設間交流を進めることにより、育成制度の充実を図ります。」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>

## 6 計画以外（報告事項等）

委員名	意見	意見に対する対応
牧田委員 （藤枝市 地域包括 ケア推進 課長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策については、コロナに関わらず、今後掲載を検討していてもよいかもしれませんね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の推進については、本計画第2部施策の推進第1誰もが暮らしやすい地域共生社会の実現4安全・安心の確保（5）感染症対策の推進で明記しております。</li> </ul>
植田委員 （牧之原 市長寿介 護課長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション、広域支援センター、支援センター、協力機関の分けが分かりづらいです。機関の登録だけでなく、そこから派遣される方への教育（市町の事業の事、ケアマネジャーの要望、地域の課題を何も知らず送られても次に続かない。「あの人に頼んでも意味ないからやめようか、期待はずれだった」と思う事例があったため）を行ってほしいです。人を指名して選べたらいいが、近隣の機関で決定されている状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションにつきましては、御指摘のとおり、大変分かりづらい状況になっております。令和3年度からは志太榛原圏域でも地域リハビリ広域支援センターが市町の介護予防事業に協力するリハビリ専門職の派遣調整を行う予定でございます。より効果的な地域リハビリテーションの強化推進が図れますように、いただきました御意見を派遣事業実施主体につなげて参ります。</li> </ul>
植田委員 （牧之原 市長寿介 護課長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症施策の家族が認知症に対してうまく対応できないケースの施策として、認知症に関する知識の更なる啓発とは何をどのように行うのでしょうか。具体策が見えません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する理解促進につきましては、一定程度の周知が進んでいる一方で、「我が事、家族の事」になるまで、理解が進んでいない場合も往々にございます。従来の認知症サポーター、子どもへの施策のみではなく、その他の人々への理解促進を進める施策を本計画で提示しております。</li> </ul>
錦野委員 （志太医 師会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での経験を大切にしたい計画も考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大は全ての人々に様々な影響をもたらしております。経験出来たこと、経験出来なかったことを大切にしながら、今後の施策・事業実施を丁寧に進めて参りたいと思います。</li> </ul>